



### 昭和戦前期の阪神国道・西難波

今回紹介するのは、昭和十三年（一九三八）撮影と考えられる、阪神国道（現・国道2号）、国道電車西難波停留所付近を西側から望む写真である。

大阪・神戸間の東西を結ぶ新たな幹線道路として、阪神国道が開通したのは、昭和元年一二月のことである。一一年後の昭和十二年、大阪市内の天神橋筋において靴商を営んでいた木田梅太郎氏は、親族の木田亀次郎氏とともに尼崎市内の阪神国道沿いの田地を購入して造成し、貸店舗を建てた。上の写真は、この貸店舗を写したガラス乾板写真のうちの一枚で、向かって左端に写っているのが、内装工事中の店舗である。

この写真を史料館に寄贈された木田幸雄氏（梅太郎氏ご子息）は、店舗建設・貸し出し時期及び、写真に国旗を掲げている家屋が写っていることなどから、昭和十三年二月一日（紀元節）に撮影されたものではないかと推定しておられる。当時の国道沿いの様子を伝える、貴重な写真史料の一枚と言える。